

日 時：令和4年2月20日（日） 13:30～16:30

会 場：市民交流センター 全6室 ※感染対策のため、部屋を分散して開催
託児ルームを用意したため、お子様連れの方も参加できました

テーマ：『若者イチ推しのまちづくりって何？』

自分の好きなこと、関心のあることから「まちづくり」につなげる。

参 加 者：18～39歳の守山市内在住の方を対象に無作為で案内を郵送し、
参加希望のある方からご応募いただきました。

参加人数：53名

一般参加者37名（託児6名）

これからの協働のまちづくり職員勉強会メンバー（※）9名

地域に飛び込んで、「楽しく」住民とコミュニケーションを図りながら、新しい市民協働のまちづくりを考えるために、
自発的に参加した職員による市内プロジェクトチームのこと。

職員ファシリテーター6名、市民ファシリテーター 1名

《当日の話し合いの流れ》 ※各部屋のPCを使って、Zoomで連携

【ステップ0】当日の流れ説明、自己紹介+アイスブレイク

①呼び名（名前、ニックネーム等）	②守山に住んでどれくらい（期間）？
③グッド or ニュー 24時間以内の出来事で、「嬉しかったこと」や「新しい発見」など、1つ教えてください	

ステップ1

好きなこと、趣味、普段
やっていること等

（現状把握）

ステップ2

（まちをつかって）やってみたい、参
加したい、関わってみたいこと等

（目的設定）

ステップ3

具体的な事業・イベントの
立案

（具体策の検討）

【各ステップの作業】

・ステップ1、2で、模造紙に意見等を書いた付せん貼り、ステップ3は模造紙に直接書いて作成

【各班発表】

・ステップ3により完成した模造紙の写真を事務局が撮影、印刷し各班に配布

・Zoomにより各班発表

《当日写真》



《各班発表内容》

グループ名	主な発表内容
A: 中山道	【地域で交流の場づくり】 ・公民館を活用した集まる場所づくり ・企業主体の交流場づくり（他業種間交流、企業×若者で企画したイベント等）
B: ホタル	【いちげんさんいらっしゃい（誰でも来られる居場所づくり）】 ・新旧住民、世代間を越えて交流できる場所づくり（空き家活用など） ・誰でも、いつでも、“話したい” “ただ居る” だけでもOKな居場所→イベント開催へ
C: 菜の花	【もーリーと行くワールドツアー】 ・駅前広場等を使った、世界の料理。世界のお酒、世界のゲーム・遊び体験イベント ・守山産の野菜を使った世界の料理。地域の飲食店にも参加を依頼する
D: メロン	【アウトドア×エコ生活のイベント（地球市民の森を活用）】 ・キャンプ等のアウトドアを楽しみながらエコ生活、環境学習ができるイベント ・アウトドア料理教室、古本販売、昆虫食、コーヒー入れ体験、コンポスト活用など
E: 妙連	【守山湖岸フェス、守山リアル謎解きゲーム】 ・湖岸地域で、グランピング・マルシェ・音楽フェス・ナイトドライブシアターなど開催 ・スマホアプリを使って、商店街を巡って謎解き、クーポン使用による食べ歩きも
F: 田園	【まちを活用した、まちが賑わう、人が集まるイベント】 ・守山市域全体を使った自転車イベント（市内各施設・民間と連携） ・脱出ゲームを軸としたまち歩き（バルやカフェと連携） ・地球市民の森を使ったマルシェイベントなど

《当日の様子や所見》

- ・各部屋から笑い声が聞こえてくるぐらい、参加者が楽しむことができる話し合いになった。
- ・「また参加したい」という声もあり、今後は今回の参加者を次につなぐ取組が必要。
- ・参加者の中には、元々地域で交流したかった、何かボランティアに参加したかったという声もあり、既存の地域における市民活動情報、ボランティア情報が市民に行きわたる情報発信の手法を考える必要がある。(市HPや広報紙の発信では今回のターゲットには伝わりにくい)
- ・Zoom連携による部屋を分けた開催では、各部屋の声や様子を感じられず寂しい。
- ・若年層は学生時代の授業でワークショップやディベート等に慣れているため、各班の進行がスムーズにできていた。
- ・各班の発表について、企画提案を話し合う時間が短く、十分に練られた企画提案を発表するには難しかった。
- ・そもそも、成果物を求めないで、自由で気軽に対話ができる場の方がニーズがあるのではないかと感じた。